

KAS

Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 98



変更前(写真上)



変更後(写真下)

詳しくは紙面にて・・・



ふぁず

レイアウト変更実施！！

すっきり広々しました～

目 次

- ・「継続は力なり」 理事長 佐藤哲也 《2 ページ》
- ・「W・D・S・N 21 (Watage Daily Support News)」
～ふぁず 作業室のレイアウト変更をとおして～ 《3 ～ 5 ページ》
- ・「お～い！ ごとく～ん！」 《6 ページ》
- ・新任職員紹介 《7 ページ》
- ・ものもらくまるちとらつく 《7 ページ》
- ・後援会のご案内・決算報告 《8 ページ》
- ・編集後記（編集部） 《8 ページ》

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1コープ野村6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 50円

継続は力なり

理事長 佐藤哲也

昔から「継続は力なり」とよく言われています。ある事をこつこつと続けることによって、徐々に力をつけていくということです。この言葉には続けていく行為そのものも尊いという意味も含まれていると思います。

私がそのことを改めて認識することになったのは、現在、小学校 4 年生の孫とキャッチボールを始めたことからです。男の子ならキャッチボールぐらい出来なくてはと思い、昨年の夏休みから朝早く、近くの公園のグラウンドでキャッチボールを始めました。初めは 4 m ほどの距離から下手投げでそっと投げてもボールを怖がっていたのですが、週に二、三度ずつ練習を積み重ねた結果、現在では 10 m ほどの距離から強いボールを投げても捕球出来るようになりました。このことから続けることの大切さを痛感させられました。

「わたげ」と「ふぁず」では、利用者の方々が社会貢献できる活動の一つとして、さまざまな作業をしています。施設外の作業活動も行っています。職員は、利用者個人毎の取り組み内容、目標及び課題を設定し、それに基づいた支援活動を行っています。そして、毎月ご家族へ活動報告をお届けしています。私は息子の活動報告を見て驚いた時のことを思い出します。重度の知的障害を伴う自閉症の彼が思いもよらず作業を出来るようになっていたのです。これは「継続は力なり」の証だと思つづく思つたものでした。

私達が目標に向けて日々行える努力は小さなものです。小さなことから「まあいいか」と先に延ばすのではなく、小さなことからこそ積み上げていくことが目標達成への近道なのです。自分にできる小さなことは、他の人もできる可能性があるはずです。目標への道は誰にでも拓かれていると言えるでしょう。利用者への作業を通しての支援が、決して特別の人だけが目標を達成できるものではないということを教えてくださいました。

人は目標に向けて努力をする時、その目標レベルは妥当であることが重要だと思います。目標が易し過ぎても、難し過ぎても意欲が起こりにくいのではないのでしょうか。継続するためには、その人の能力に応じた目標設定が必要だと思います。

今、「継続」ということで気にかかることがあります。それは、東日本大震災の継続的な復興支援です。私たちは、この「継続」という課題に真摯に向き合い、自分達のできることで支援活動を続けていくことが大切だと思います。私たちはいつ逆の立場、すなわち、「明日は我が身」になるかもしれないのです。日本人の良さである「お互い様の精神」をもう一度思い起こし、支援活動を続けていかなければならないと考えています。

社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷は、本年 3 月からの生活介護事業への移行を機として、横須賀 三浦障害保健福祉圏域における法人の使命を改めて肝に銘じ、将来の展望を視野に入れながら、生活介護事業所及びケアホームの安定した経営を継続していく所存であります。皆様方の変わらぬご支援 ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「W・D・S・N 21(Watage Daily Support News)」

～ふぁず 作業室のレイアウト変更をとめて～

◎ はじめに

去る2月29日、関東でも積もるほどの雪が降った日に、ふぁずの作業室は様変わりしました。レイアウト変更とは、いわゆる席替えのようなものですが、各利用者の活動場所、机や棚の場所、通路など、作業室全体のレイアウトを変更するものです。前回のレイアウト変更は2008年7月31日、約3年半ぶりの変更でした。

今回のレイアウト変更の目的は・・

- ① 個々の利用者の、現状に合わせた活動場所を提供する
・・以前に比べ、作業棚の材料の増減を見ても気にならなくなった、周囲に人の動きが見えても活動に集中できるようになったので、仕切りを低くするなど、今現在の個々の利用者の成長を整理し、利用者が最大限に力を発揮できる活動場所を提供する。
- ② 作業種に合った作業場所、机を提供する
・・主に行っているケーブル作業に合わせた机にする。また、菓子箱の仕切りを折る作業など、幅広い机が必要な作業に対応した、その作業を行う利用者誰もが使用できる共有スペースを設ける。
- ③ 空調を効果的に活用し、生理的環境の向上を図る

ふぁずを開所してまもなく13年。どの利用者也、ふぁずでの日中活動を積み重ね、日々の仕事や活動をそつなくこなしています。一見問題のないように見えますが、本当にその人の最大限の力で最大限出来ることをする機会を提供出来ているのかなと考えた時、疑問符がつかしました。

現在行われている作業や活動の中には、古くは開所当時、もしくは数年前に始め、微調整は行われているものの、取り組み当初とほぼ同じように行われているものがあります。新しい職員や実習・見学者に、利用者の活動について、こういう理由でこういう支援をしていますと説明する時、その理由が、数年前の利用者の能力や行動を背景としていることが多くあることに気付かされます。

例えば、昼食で利用者や職員が使用するお箸やコップ、台拭き等をかごにまとめる「食器準備」という活動があります。文字で書かれた手順書があり、毎日職員が、通所する人数に合わせて、「コップ10個」「お箸20本」など数字を書き入れています。この活動を長年ひとりの利用者が役割として行っていますが、ある時、職員が記入した数字の間違いに気付き、正しい数字を職員に言うことができました。ふぁずでは、出欠ボードがあり、それを見ると通所人数がわかるので、それを見て判断したようです。そこで初めて、何個用意すれば良いのか、心の中では分かるようになっていたことに気付きました。

このように、以前は支援が必要だったこと、道具を用いて出来たこと、出来なかったことについて、変化していることが、作業や様々な活動の中であるのではないか。それを支援者が見落としてはいけないか。支援者が、利用者の成長を記録や日々の様子から感じ取り、認め、次のステップを提案することで、利用者の能力の向上に繋がるのではないか。

そして利用者自身の、努力を認められた喜びや自信、活動への一層の意欲に繋がっていくのではないかと。その思いに至ったことが、利用者の日中活動の現状をじっくり把握し直し、それに合わせたレイアウト変更をしようと考えた、大きなきっかけでした。

◎ レイアウト変更の準備から学ぶ

さて、目的を明確にし、実施日も決め、そしていよいよ、実際どのように新しいレイアウトにするのかということをお話ししました。

まず、右の写真の「アセスメント表」を用いて、個々の利用者の、各活動での様子、以前との違い、課題点を挙げ、どのような環境が適切なのかをまとめました。そして、作業室内のどの場所に、どういう机で、どのような設定をすれば環境が整うのかを、下の写真のようなボール紙で作った100分の1サイズのミニチュアを動かしながら考えていきました。

さん アセスメント表			
記入日時:	年 月 日	記入者:	
活動	課題点	必要な環境設定・支援	
作業	・ 作業・水端より行く ・ サーキュレーターに当たる ・ カットボードのスペース不足	・ 作業机を動かす、居心地に合わせる ・ 空調の向きを調整する ・ カットボードの端物を切る	
休憩	・ パネルの持ち運びが 指さすことが出来る ・ 隣の席まで使用する (送迎を促す)	・ 送迎を促すのと併せて ・ 机の隅に、スリッパを置く ・ 机の隅に、スリッパを置く	
スケジュール	・ 作業机の周りのスペース ・ 作業机の周りのスペース ・ 作業机の周りのスペース	・ スケジュールの内容、歩行の調整 ・ 作業机の周りのスペース ・ 作業机の周りのスペース	
掃除機	・ 掃除機が通らない ・ 掃除機が通らない	・ 掃除機が通らない ・ 掃除機が通らない	

アセスメント表

この作業を行っていくと、必ず、この点が良くないということばかりが浮かび上がります。外が見えすぎる、日が入りすぎる、トイレに近すぎる・・・などなど。しかし、あまり考えすぎないことも大切なのだと思います。完璧な環境作りが必要な時もあるれば、環境に人が合わせる力を信じる時があっても良いのではないのでしょうか。



ただし、その環境で、その人がどう行動するのか、どう変わっていくのかをきちんと把握し、記録し、変えた方が良ければすぐに変更できるアイディアを持っておく必要はあると思います。

◎利用者への伝達～当日の様子

今回、利用者にレイアウト変更に関わってもらうことを念頭に置き、準備を行いました。しかし、全体のレイアウトを変更し、作業机自体も別の机に変更することもある為、それぞれが新たな場所に作業机を移動するという事はやはり難しい状況でした。そこで、自分の道具やスケジュール等をひとまとめにし、新たな机にセットすることで、関わりを持ってもらいました。



上は初回、下は最終レイアウト

そして、作業室全体のレイアウト変更は、前回と同様、利用者が帰った後、職員が行いました。新しい作業室、活動場所を写真に撮り、当日利用者に伝える為の資料を作成し、準備完了！！

いよいよ当日。大雪でした・・・。自主送迎となり、通所した利用者は2名。その翌日に7名を受け入れました。

結果としては、送迎車内や玄関で、資料によりレイアウト変更を伝えられ、室内に足を踏み入れる時は、ちょっと慎重な足取りで周囲を見渡していましたが、スケジュールと各活動場所さえ分かれば、あとはいつものとおりに作業開始。1ヶ月以上の準備期間を考えると、あっけないような気持ちもありましたが、大幅な変更にも関わらず、いつも通り活動している利用者の方々をみて、頼もしくもありました。

◎ レイアウト変更をとおして

レイアウト変更後、日を重ねるごとに、新たな細かな課題は出てきますが、全体的に、以前より活動に集中出来るようになっていきます。そして、今回の、利用者の変更にも動じない姿、安定感をみて、次回のレイアウト変更では、もっと利用者の方に関わってもらいたい、さらに、この場所でやりたい等、利用者に活動場所を選んでもらうことにもチャレンジしていきたいと考えました。

また、ご家族にレイアウト変更を行うことをお知らせし、家庭での変化があったら教えてほしいと伝えた時の、「ふあずの職員さんがしてくれることだから心配していません」、「小さな変化には敏感だけど、全体がガラッと変わる事は意外にすんなり受け入れるんです」といったご家族の言葉から、職員への信頼を頂けていること、利用者に対するご家族と職員の共通認識が出来ていることを感じ、支援者としてうれしく思いました。

利用者の方々が、この大幅なレイアウト変更を受け入れることができたのは、事前に写真による資料でお伝えしたことにより、内容を理解し安心感を持てたからだと思います。そして、理解できる内容であれば、大きな変化を受け入れる体勢が十分培われている方々に対して、求められている支援の視点としては、安定した生活を維持することだけでは足りず、新たな挑戦の機会を提供し続けることだと感じ、背筋をのばす新年度の幕開けとなりました。



●レイアウト変更についての評価表
2012年2月29日（水）レイアウト変更1日目

※評価：○＝出来る △＝ほぼ出来る 一部支援 ○＝出来ない、する気がない

項目	評価 午前/午後	様子詳細・自立時期
伝達資料への意識	○	送迎車内で見て、内容を理解し、作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
職員の誘導に従う	○	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
スケジュールへの移動	△	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
ロッカーへの移動	△	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
作業への移動	○	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
作業材料・道具の使用	△	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
休憩への移動	△	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。
休憩の場所の移動	△	作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。作業室に入ると、作業開始。

レイアウト変更時、個々の利用者の様子を記録に残すための評価表

庄司 恵美子

『お～い、ごとくーん！！』

わたげ 施設長 後藤博行

厳しい寒さが続いた冬もようやく終わり、横須賀は、今桜の花が満開である。浦賀方面への送迎コースの途中でも道の両側に桜が咲き、見事な景観を楽しませてくれている。先日、電車で30分ほど揺られて、あるお寺の境内へ花見に行った。まだ満開ではなかったが、十分に桜の花を楽しむことができた。私が、お寺に行く楽しみはもう一つあり、山門の両脇に立つ仁王像を見るのが好きなのである。寺ごとに表情の違う仁王像の前に立つと、思わず背筋がピンとして、凜とした気持ちになるのだ。

ところで皆さんは、お寺にある仏像の姿には、意味が込められていることをご存知だろうか。1573年に生まれ、戦国の世にあって、幕府権力や朝廷権力に抗して一歩も退かず、73歳でこの世を去るまで仏法に生きる姿勢を貫き通した、僧 沢庵（たくあん）が、友人でもあり知己でもある柳生但馬守（やぎゅうたじまのかみ）に向けた書の中に、『千手観音の不動智』という一節があるので、ご紹介したい。

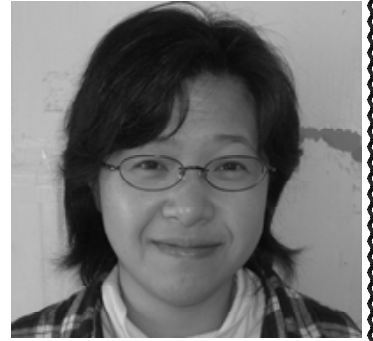
・・・千手観音だとて、手が千本おありになりますよ、もし、弓を持っている一つの手が心にとらわれてしまえば、残りの九百九十九の手は、どれも役にはたちますまい。一つの所に心を止めないからこそ、千の手が皆役に立つのです。たとえば、一本の木を見ているとしましょう。その中の赤い葉一枚に心を止めて見れば、残りの葉は目に入らないものです。葉の一枚一枚に目を止めずに、木の全体を何ということなく見るなら、たくさんの葉が全部目に入ります。このことを悟った人は、つまり千手観音と同じです。それなのに、一般の人々は、ただただ、一つのお身体に千本の手、千の眼を持っておられるのだから有難いとばかり思い込んでいるのです。生半可の者は、一つの身体に千の眼があるなんて、嘘にきまっていると考えて、仏法をそしめるのです。もっとよく知れば、わけも解らず信じこんだり、反対にそしたりするのではなく、道理をよく理解して尊び、信じることになります。仏法は一つの物によって、理を表わしているのですから。仏法に限らず、諸々の道は、すべてこういうものです。何事にも、そのなかには道理が含まれているからです。この道、あの道と、道筋はさまざまですが、極まる所は同じだということです。・・・

沢庵和尚によれば、仏像はその姿から、仏法の道理を人々に伝えているのだということである。千手観音は、何かに心にとらわれると、いろいろな気持ちや考えが胸の中に湧き起こってきて、あれこれと思わずらい、自分の心が動こうとしても、自由自在に動けなくなってしまうですよ、物の道理が見えなくなりますよ、だから、心をひとところに止めないことが大切ですよ、と言うことを伝えているのだ。

わたげとふぁずは、3月によりやく生活介護事業所に移行した。また、4月からは、障害者自立支援法の改正が実施され、説明会なども次々行われており、利用者の生活にも直接関わる部分の変化もある。この変化に何とかついていかなければということに、とらわれ過ぎているのではないだろうか、と、未熟な自らを省みる今日この頃である。昨年度は、新規事業へ移行すること、期限も迫り、とにかくその一点にとらわれて、常に追われているような忙しない心の在りようであったと思う。しかし、法はどのように変わろうとも、私たちのなすべきことの本質は常に変わらないのだと改めて考えるのである。私たちの支援が、利用者一人ひとりの生活の質の向上につながっているのか、常にそこを求めて、今年度も職員一同研鑽を積んで参りたいと思います。

☺ 新任紹介 ☺

はじめまして。3月1日より非常勤看護師として勤めさせて頂いております、山田美由紀(やまだ みゆき)と申します。週1回(水曜日)の勤務で、わたげとふあずの両方に行かせてもらいます。家族は夫と高校3年生の娘、中学1年生の息子、小学4年生の息子の5人家族です。長女の出産を機に勤めていた病院を退職し子育てに専念しておりましたので、17年ぶりの復帰となります。ブランクの長さや福祉施設での勤務は初めてで不安もありましたが、利用者さんがそれぞれのペースで真剣に御自分の仕事に取り組む姿と、利用者さん一人ひとりの課題を考え支援されている職員の皆さんの姿を見て、私も一緒に考えていきたいと思いました。週1回の勤務なので今は顔を覚えていくこと、職場に慣れることで精一杯なのですが、新しい分野で学んでいきたいと思っています。



私のことをもう少しお話しさせて頂きますと、出身は新潟県です。夫の仕事の関係で横須賀に来て14年になりますが、驚いたのは気候の違いです(特に冬!) 真冬に布団が干せるなんて!!と感激したのを覚えています。新潟の平野部、つまり田んぼが周りに広がるところで育ちましたので、横須賀は海も山も近いなあ・・と感じました。子どもたちが生まれ優しいお母さんになりたい・・というのは理想に終わった感がありますが(怒ってばかりです)、最近是对等に意見を言う子どもたちに成長を感じています。

舞台や映画を観るのが好きですが、映画館にはなかなか行けずDVDで観ることが多いです。読書も好きで、今好きな作家は万城目学(まきめ まなぶ)です。荒唐無稽な話なのですが読み終わった後にじわっと大切なものが残っている感じがして好きです。

看護師として利用者さんの健康第一に考えていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

たんぽぽ・ヨコスカ ものどらっくまるちどらっく No.49

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。

篁一誠先生 ケース会議について

2月17日(金)、篁先生(PDDサポートセンターグリーンフォレスト)が来所されました。日中のわたげの様子を見ていただき、ケース会議にて講義と、職員からの質問に対するアドバイスをいただきました。

今回の講義では『支援者の精神衛生』というテーマで講義をしていただきました。職員自身のリフレッシュ方法、時間の使い方といった、真摯な姿勢で支援に当たっていくために必要なメンタル面でのサポートについて伺いました。また利用者への支援を肯定的に評価していくことで、より良い支援に向かっていく意欲に繋がっていくとお話をされていました。

今回の講義を受け、常に新鮮な気持ちで利用者と向き合っていくことの難しさ、そして、その重要性を感じました。

広瀬宏之先生 ケース会議について

2月3日(金)、広瀬先生(横須賀市療育相談センター所長)が来所され、ケース会議を行いました。利用者の服薬や姿勢について等、多岐に渡りご教授をいただきました。

「させられている」と感じるのではなく、「やりたい」という好奇心を刺激するように支援することによって、精神的に若々しく生き生きとした生活を提供できると、アドバイスから学びました。

オンブズマン来所について

2月23日(木)、オンブズマン2名が来所し、ふあずの利用者や支援の様子、利用者の方々が働く施設内の環境を見ていただきました。

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な援助に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員 1口	3,000円
	団体会員 1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

《2011 年度 決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のと通りの収支でしたので、ご報告申し上げます。

(自 2011 年 4 月 1 日 ～ 至 2012 年 3 月 31 日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	1,208	寄付金(わたげへ)	574,000
会費	583,000	次期繰越金	10,208
合計	584,208	合計	584,208

以上 会計 常田 ちよ子



2011 年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないことを証します。

会計監査 對比地 祐子



高橋 正子



皆様より会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。

★★

編集後記～編集部～

最近ニュースでも話題になっている、5月に見られる金環日食。なぜ、こんなに話題になるか、ご存知ですか？理由は単純。とても珍しい現象だからです。今回を逃すと、次回に見られるのは2030年の北海道、さらに先になると2041年の伊豆半島だそうです。10年以上先ですね。ちなみに前回、金環日食が日本で見られたのは、1987年の沖縄だったそうです。今から25年前。また本州で金環日食を見ることが出来るのは、1883年以来だそうです。5月21日、7時30分にぜひ空を見上げてみてください☆ 竹内

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21
TEL:046-844-0038 / FAX: 046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp